

# 『近江宝鑑』にみる神社の拝所について\*

多米 淑人<sup>\*1</sup>

## On the “Haisyo” of Shinto Shrine in “Ohmi-Houkan”

Yoshihito TAME<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> Department of Architecture and Environmental Engineering

The building of worship place which is called “Haisyo” is one of the characteristics of the shrine in Wakasa-district, Fukui Prefecture. And buildings similar to “Haisyo” are seen the shrine in Kyoto and Shiga Prefecture. In previous studies the architectural styles, the characteristics and the distribution of “Haisyo” were reported. From the results of the study “Haisyo” of independent type is the official “Haisyo”. And the standard architectural styles of independent “Haisyo” was reported the following. The frontage and the depth are same one span, the roof style style is “Karahafu-zukuri”, the no wall and no housing. In this paper, “Haisyo” of Shinto Shrine in “Ohmi-Houkan” is considered. As a result, this paper found the following. The pictorial map of 111 sheets in “Ohmi-Houkan” is found compellation of “Haisyo” is two examples and this inside thirteen pictorial maps to which “Haisyo” is drawn. Two shrine buildings indicated to be “Haisyo” are not “Haisyo” that are “Wari-Haiden”. “Haisyo” resembles “Shinmon” in buildings form. Compellation of “Haisyo” is not common.

**Key Words :** “Haisyo”, Shinto Shrine, “Shinmon”, Pictorial Map

### 1. はじめに

これまで福井県若狭地方の神社にみられる拝所の建築形式やその特徴、分布状況などについて報告し、独立型拝所が正式な拝所であること、独立型拝所の標準的な建築形式は、Fig.1のような規模が方1間、屋根が唐破風造・銅板葺の妻入り、外廻りが四方吹き放しであることを指摘し、さらに拝所は拝殿とともに神を拝むための建物であるが、建築形式は拝所の方が拝殿よりも上格の建物であることなども指摘している<sup>(1)(2)</sup>。また、若狭地方と近接する京都府や滋賀県にも「拝所」とは呼ばれていないものの拝所と類似した建物があることも指摘している<sup>(3)</sup>。さらに、京都府立総合資料館が収蔵する『延喜式内並国史見在神社考証』において「拝所」の呼称が4例、Fig.2のような拝所の描写が11例確認できたことも報告している<sup>(4)</sup>。

本稿は、今回新たに蒐集した『名蹟図誌近江宝鑑上・下巻』<sup>(5)(6)</sup>（以下、『近江宝鑑』と呼ぶ）の拝所について考察する。



Fig.1 標準的な独立型拝所の例  
(日吉神社・美浜町早瀬)



Fig.2 『延喜式内並国史見在神社考証』  
内の拝所の描写(酒治志神社絵図)

\* 原稿受付 2014 年 2 月 28 日

<sup>\*1</sup> 建築生活環境学科

E-mail: tame-yoshi@fukui-ut.ac.jp

## 2. 『近江宝鑑』について

『近江宝鑑』とは、『大日本名蹟図誌』全11編<sup>7)</sup>のうちの第2編で、明治30年に名古屋光彰館から発行され、著作兼発行者は渡邊市太郎である。本書は全国各地の社寺の縁起や由緒などの文言とともに、境内の俯瞰図も掲載されていて、当時の各社寺の境内の様子を窺い知ることができる貴重な史料である。

中でも『近江宝鑑』には、旧近江国内の境内の様子を描いた絵図が111葉、114社の所収されている。これらには各神社の由緒などの文言の他に、本社や拝殿、摂社などの各社殿の描写および各社殿を示す呼称が記述されている。

これら114社を郡別、社格別にみるとTable 1のようになり、神崎郡が8社、愛知郡が16社、犬山郡が16社、阪田郡が6社、東浅井郡が4社、伊香郡が7社、滋賀郡が10社、甲賀郡が8社、野洲郡が7社、蒲生郡が7社、高島郡が12社である。社格は、官幣大社が1社、官幣中社が2社、県社が3社、郷社が71社、村社が16社、絵図中に社格に関する記載のないものが21社である。

なお、本稿における神社名の前に付している番号は、本書の掲載順を基本として1社ごとに付している。しかし、中には所在村が前後バラバラになっているものもみられ、このような場合は村単位にまとめて、再度順序付けている。

Table 1 『近江宝鑑』の神社の所在郡と社格

	官幣大社	官幣中社	県社	郷社	村社	社格の記載なし	計
神崎郡	0	0	0	6	0	2	8
愛知郡	0	0	0	11	1	4	16
犬山郡	0	1	2	9	1	3	16
阪田郡	0	0	1	4	0	1	6
東浅井郡	0	0	0	4	0	0	4
伊香郡	0	0	0	4	3	0	7
滋賀郡	1	0	0	5	0	4	10
栗田郡	0	1	0	6	4	2	13
甲賀郡	0	0	0	5	1	2	8
野洲郡	0	0	0	6	1	0	7
蒲生郡	0	0	0	4	2	1	7
高島郡	0	0	0	7	3	2	12
計	1	2	3	71	16	21	114

## 3. 『近江宝鑑』内の拝所

### 3.1 「拝所」の記述

前述の111葉の絵図を管見したところ、滋賀郡大津町の59.三尾神社(Fig.3)と61.天孫神社(Fig.4)の絵図内に1例ずつ、計2例の「拝所」の記述が確認できた。

これらを見ると、前者の59.三尾神社は正面3間、奥行1間、入母屋造軒唐破風付、平入りの社殿で、正面の柱間装置は脇間が腰壁と菱格子窓、中央間が吹き放しである。後者の61.天孫神社は正面3間、奥行2間、入母屋造千鳥破風軒唐破風付、平入りの社殿で、正面の柱間装置は三尾神社と同様に脇間が腰壁と菱格子窓、中央間が吹き放しである。このような建築形式は、本研究で取り扱う拝所とは異なっており、むしろ割拝殿の建築形式に類似している。したがって、『近江宝鑑』における「拝所」の事例は滋賀郡大津町の2例(1.8%)のみで、これらが示している建物は拝所ではなく、割拝殿である可能性が高いといえる。



Fig.3 59.三尾神社の絵図（滋賀郡大津町）(拡大)

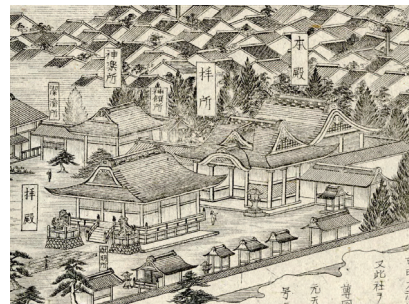


Fig.4 61.天孫神社の絵図（滋賀郡大津町）(拡大)

### 3.2 拝所の描写

前述のように『近江宝鑑』には2例の「拝所」の記述が確認できた。しかし、本書の絵図には、拝所と記述されていないものの、本研究で取り扱う拝所と同様あるいは類似した建築形式をもつ建物がみられる。本項は絵図にみられるこれらの建物について考察する。

『近江宝鑑』には114社の境内の様子が描かれた絵図が111葉みられる。この内、本研究でいう拝所と同様に本殿の直前にたつ独立型のものは、Table 2とFig.5~17に示した13例である。これら13例うち8例は該当建物に呼称の記載がみられないが、14.安孫子神社と17.八木神社は幣殿、90.馬路石邊神社は神門と記載されている。

13例の建築形式をみると、規模はすべてが間口1間で、奥行は12例が1間、残りの1例は2間である。屋根形式は唐破風造が8例で最も多く、4例が切妻造、1例が入母屋造である。外廻は13例のうち周囲に壁や建具などをたてない四方吹き放しが5例で最も多く、側面全面が壁のものと側面が腰壁のものがそれぞれ3例ずつである。残りの2例は前方柱間あるいは後方柱間に扉を付け、それ以外の柱間を吹き放しとするものである。このような前方柱間あるいは後方柱間に扉を付ける例は他に1例みられ、これら3例は扉の他に柱両脇から玉垣が廻っていて、門としての性格も有していると考えられる。柱両脇から玉垣が廻る例はこの3例の他に6例みられる。

したがって、絵図にみる拝所は規模が方1間、唐破風造、外廻は側面全面に壁をたてない吹き放しで、前方あるいは後方柱間から玉垣を廻す描写が多くみられることが指摘できる。

このような規模や屋根形式、外廻の建築形式は、既に報告している若狭地方の拝所と似ており、さらにこれらを含めて扉が付く点や柱両脇から玉垣が廻る点などは、既報の『延喜式内並国史見在神社考証』内の絵図にみられる旧丹波国、旧山城国の拝所と類似していることも指摘できる。

Table 2 絵図に描写されている拝所の建築形式

番号	神社名(絵図記載)	所在地	社格	規模		屋根形式	外廻	正面柱間装置	玉垣の付き方	絵図内の呼称
				間口	奥行					
1	河柝御河邊神社	神崎郡 御園村	郷社	1	× 1	唐破風造	側面壁	後方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	—
11	豊満神社	愛知郡 (国豊村)	郷社	1	× 1	切妻造	吹き放し (側面:腰壁)	—	—	—
14	安孫子神社	愛知郡 泰川村	郷社	1	× 1	切妻造	吹き放し (側面:腰壁)	—	—	幣殿
17	八木神社	愛知郡 八木荘村	郷社	1	× 1	唐破風造	吹き放し (側面:腰壁)	(玉垣)	前方柱両脇から廻る	幣殿
27	千代神社	犬山郡 青波村	県社	1	× 2	唐破風造	四方吹き放し	—	前方柱両脇から廻る	—
43	山津照神社	阪田郡 息長村	郷社	1	× 1	唐破風造	吹き放し	後方柱間に扉	後方柱両脇から廻る	—
65	那波加神社	滋賀郡 雄琴村	郷社	1	× 1	切妻造	吹き放し	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	—
90	馬路石邊神社	野洲郡 守山村	郷社	1	× 1	唐破風造	側面壁	(玉垣)	前方柱両脇から廻る	神門
92	新川神社	野洲郡 野洲村	郷社	1	× 1	唐破風造	側面壁	—	前方柱両脇から廻る	—
96	綿向神社	蒲生郡 日野町	郷社	1	× 1	唐破風造	四方吹き放し	—	—	—
99	阿賀神社	蒲生郡 中野村	村社	1	× 1	入母屋造	四方吹き放し	—	社殿を囲むように廻る	—
108	日置神社	高島郡 川上村	郷社	1	× 1	唐破風造	四方吹き放し	—	後方柱両脇から廻る	—
114	日吉神社	高島郡 大溝村	村社	1	× 1	切妻造	四方吹き放し	—	前方柱両脇から廻る	—

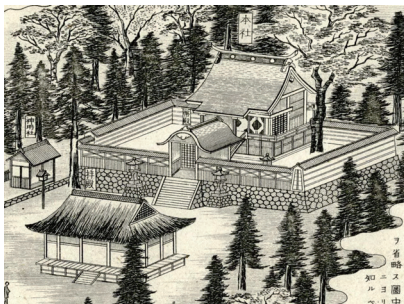


Fig.5 1.河柝御河邊神社絵図(拡大)

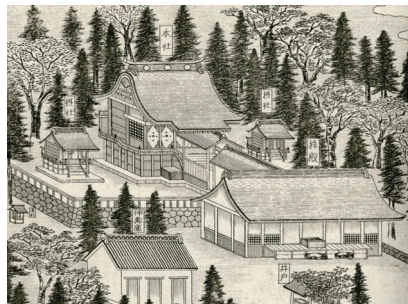


Fig.6 11.豊満神社絵図(拡大)

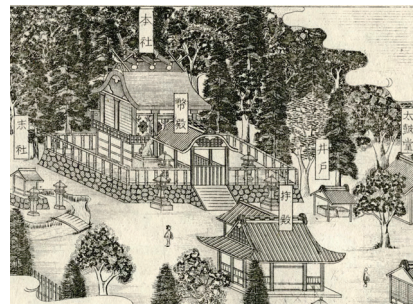


Fig.7 14.安孫子神社絵図(拡大)



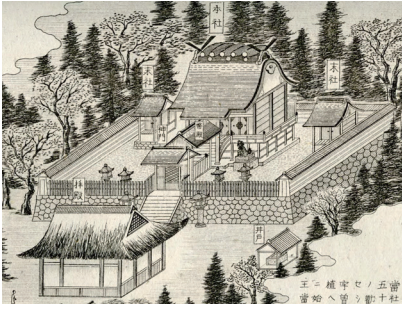


Fig.8 17.八木神社絵図 (拡大)



Fig.9 27.千代神社絵図 (拡大)



Fig.10 43.山津照神社絵図 (拡大)



Fig.11 65.那波加神社絵図 (拡大)

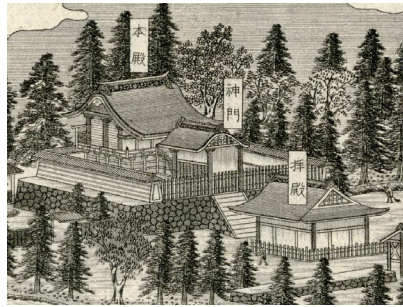


Fig.12 90.馬路石邊神社絵図 (拡大)



Fig.13 75.新川神社絵図 (拡大)



Fig.14 96.綿向神社絵図 (拡大)

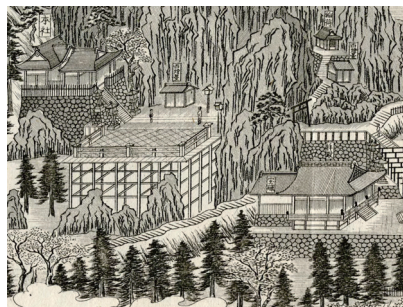


Fig.15 99.阿賀神社絵図 (拡大)



Fig.16 108.日置神社絵図 (拡大)

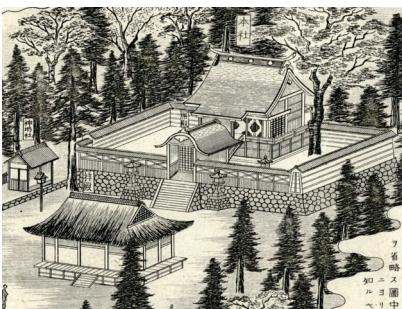


Fig.17 114.日吉神社絵図 (拡大)

### 3.3 記述と描写からみる拝所の呼称

前述のように、『近江宝鑑』における「拝所」の記述は 114 社中 2 例 (1.8%) と少なく、これらが示している建物は、拝所ではなく割拝殿である可能性が高い。また、絵図にみられる若狭地方や旧丹波国、旧山城国の拝所と類似する建築形式をもつ建物 (拝所) の描写においても 114 社中 13 例 (11.4%) と少数である。さらにこれら 13 例のうち該当建物を 2 例が幣殿、1 例が神門と記述していて、拝所と記述している事例はみられない。



したがって、当地域での拝所の呼称は一般的でなく、本殿のすぐ前にたつ建物を一社殿としてみていなかった可能性が高い。

## 4. 神門について

### 4.1 神門の建築形式

これまでの研究によって拝所は扉を付け、門としての性格を有しているものもみられることから、本章では特に本殿の前にたつ門についてみていく。これらの門はいずれも拝所とは異なり、本殿の直前ではなく、本殿より少し離れた位置にたっている。

『近江宝鑑』には、本殿の前の建物を Fig.18 のように神門と記述している事例が、前述の 90.馬路石邊神社を含めて 14 例みられる。Table 3 はこれら 14 例の神門の建築形式と中門と記述されている 1 例および Fig.19 のように神門との記述はないものの、本殿の前にたち扉が付き、神門としての性格を有していると考えられる 35 例の建築形式をまとめたものである。

これら 50 例を門形式でみると、大きさはすべてが 1 間 1 戸で、形式は棟門 (Fig.18) が 24 例、向唐門 (Fig.19) が 11 例、薬医門が 8 例、平唐門が 3 例、四脚門が 1 例である。残りの 3 例は門形式としては分類できない門である。

次に 50 例の建築形式をみると、屋根形式は切妻造が 35 例で最も多く、次いで唐破風造の 14 例、入母屋造が 1 例である。入り方向は、平入りが 37 例で、妻入りが 13 例である。屋根形式と入り方向の関係をみると、切妻造平入りが最も多く 35 例、次いで唐破風造妻入りが 11 例、唐破風造平入りが 3 例、入母屋造妻入りと切妻造妻入りが、それぞれ 1 例ずつである。

以上のことから、『近江宝鑑』にみる神門は、いずれも 1 間 1 戸の大きさで、中でも切妻造平入りの棟門あるいは薬医門が最も多いことが指摘できる。さらに、拝所と同様に妻入りとする門が 13 例みられ、これらの屋根形式は唐破風造とするものが多いことも指摘できる。

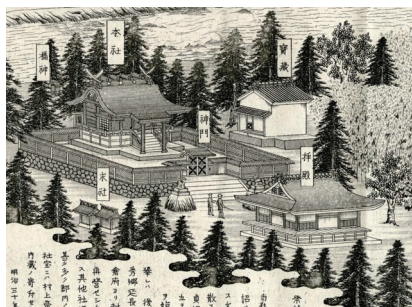


Fig.18 神門の記述がある例  
(69. 佐久奈度神社の絵図) (拡大)



Fig.19 神門と考えられる例  
(4. 武須比神社の絵図) (拡大)

Table 3 神門の建築形式

番号	神社名	所在地		社格	間と戸	門形式	屋根形式	入り方向	絵図内の呼称
3	山王神社	神崎郡	建部村		1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—
4	武須比神社	神崎郡	南五箇庄村		1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
13	軽野神社	愛知郡	泰川村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
15	春日神社	愛知郡	泰川村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
16	大皇器地祖神社	愛知郡	東小涼村		1 間 1 戸	平唐門	唐破風造	平入り	—
21	八幡神社	愛知郡	愛知川村		1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	神門
22	石部神社	愛知郡	(愛知川村)	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
29	新神社	犬山郡	青波村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	神門
33	大滝神社	犬山郡	大滝村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—

『近江宝鑑』にみる神社の拝所について

34	甲良神社	犬山郡	甲良村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
36	桂城神社	犬山郡	西甲良村	郷社	1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	神門
38	甲良神社	犬山郡	西甲良村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
39	河瀬神社	犬山郡	河瀬村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
40	阿自岐神社	犬山郡	豊郷村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
41	加茂神社	阪田郡	醒井村		1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
44	都久麻神社	阪田郡	入江村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	神門
45	坂田宮岡神社	阪田郡	法性村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	神門
51	與志漏神社	伊香郡	高時村	郷社	1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—
52	高野神社	伊香郡	高時村	村社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
53	廣峰神社	伊香郡	高時村	村社	1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—
54	草岡神社	伊香郡	片岡村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
56	意富布良神社	伊香郡	木之本村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	神門
60	長等神社	滋賀郡	大津町	郷社	1 間 1 戸	平唐門	唐破風造	平入り	神門
62	平野神社	滋賀郡	大津町	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
68	建部神社	栗田郡	瀬田村	官幣中社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
69	佐久奈度神社	栗田郡	大石村		1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	神門
70	大寶神社	栗田郡	大寶村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	神門
71	印岐志呂神社	栗田郡	常盤村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
72	鞭崎神社	栗田郡	老上村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
73	山田八幡宮	栗田郡	山田村	村社	1 間 1 戸	平唐門	唐破風造	平入り	—
74	立木神社	栗田郡	草津町	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
75	小槻神社	栗田郡	志津村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
76	小槻神社	栗田郡	治田村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
77	五百井神社	栗田郡	治田村	村社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	—
78	大野神社	栗田郡	金勝村	村社	1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—
79	大萱神社	栗田郡	常盤村	村社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
80	意布岐神社	栗田郡	常盤村		1 間 1 戸		切妻造	妻入り	—
81	田村神社	甲賀郡	土山	郷社	1 間 1 戸		切妻造 軒唐破風付	平入り	—
82	水口神社	甲賀郡	水口町	郷社	1 間 1 戸	四脚門	切妻造	平入り	神門
83	川枯神社	甲賀郡	油日村	郷社	1 間 1 戸		入母屋造	妻入り	神門
84	大鳥神社	甲賀郡	大原村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
85	吉姫神社	甲賀郡	石部村		1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	中門
86	吉御子神社	甲賀郡	石部村	村社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	神門
90	馬路石邊神社	野洲郡	守山村	郷社	1 間 1 戸	向唐門	唐破風造	妻入り	神門
93	菅原神社	野洲郡	祇王村	村社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	神門
95	下新川神社	野洲郡	中州村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
97	沙々貴神社	蒲生郡	安土村	郷社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
98	活津彦根神社	蒲生郡	安土村	村社	1 間 1 戸	棟門	切妻造	平入り	—
102	奥石神社	蒲生郡	老蘊村	郷社	1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—
107	唐寄神社	高島郡	百瀬村		1 間 1 戸	薬医門	切妻造	平入り	—

## 4.2 神門と拝所の関連性

前述のように、『近江宝鑑』の神門には、妻入りのものが13例みられ、これらの屋根形式は、Fig. 20のような唐破風造が11例、入母屋造（Fig. 21）と切妻造がそれぞれ1例ずつである。これらの建築形式を拝所の観点に沿ってまとめたものがTable 4である。規模は13例すべて間口が1間、奥行は1間が9例、2間が3例である。外



廻は描写の関係上判別しにくいものがあるが、吹き放しが7例で、側面全面を壁とするものが6例である。さらに、これらのうち、4例に腰長押あるいは腰貫がつく。扉は11例にみられ、前方柱間に付けるものが6例、後方柱間に付けるものと親柱（中央柱）間に付けるものがそれぞれ2例ずつである。玉垣は神門であることから13例すべてに柱両脇から廻っている。したがって、妻入りの神門は、規模が方1間、唐破風造で、外廻を吹き放し、側面を壁とし、柱間に扉を付け、柱から玉垣を廻すのが一般的な建築形式といえる。

これらを既報の拝所の建築形式と比較すると、規模が方1間であることや屋根が唐破風造であること、外廻を吹き放しとするものがみられることなどは類似する。さらに、旧丹波国と旧山城国の拝所と同様に扉を付け、玉垣が廻る点も同じである。また、側面に腰長押や腰貫を付けるのは、既に報告している<sup>(8)</sup>福井県敦賀市の常宮神社の拝所と同様である。この常宮神社の拝所は、敦賀市気比神宮の旧中門を移築したものであり、元来は門として機能していた建物である。

以上のことから、妻入りの神門と拝所は、たっている場所が異なるものの建築形式には類似点がみられ、関連性が窺える。

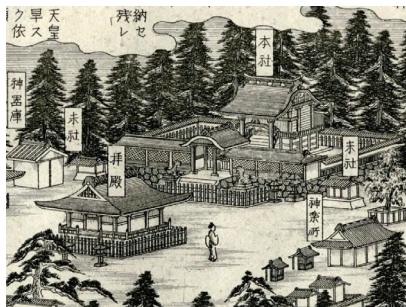


Fig.20 唐破風造妻入りの神門  
(74.立木神社の絵図) (拡大)

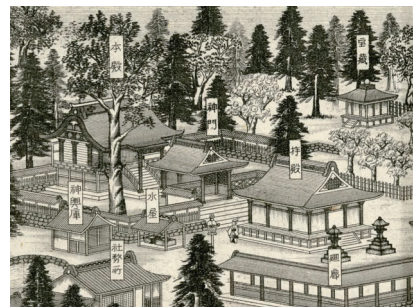


Fig.21 入母屋造妻入りの神門  
(83.川枯神社の絵図) (拡大)

Table 4 妻入り神門の拝所の観点からの建築形式

番号	神社名(絵図記載)	所在地		社格	規模	屋根形式	外廻	正面柱間装置	玉垣の付き方	絵図内の呼称
					間口 × 奥行					
4	武須比神社	神崎郡	南五箇庄村		1 × 1	唐破風造	吹き放し	後方柱間に扉	後方柱両脇から廻る	—
29	新神社	犬山郡	青波村	郷社	1 × 1	唐破風造	吹き放しか	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	神門
44	都久麻神社	阪田郡	入江村	郷社	1 × 1	唐破風造	側面壁	前方柱間に扉	後方柱両脇から廻る	神門
68	建部神社	栗田郡	瀬田村	官常中社	1 × 2	唐破風造	吹き放し (側面:腰長押、腰貫か)	(玉垣)	前方柱両脇から廻る	—
70	大寶神社	栗田郡	大寶村	郷社	1 × 2	唐破風造	吹き放し (側面:腰貫)	親柱柱間に扉	親柱両脇から廻る	神門
71	印岐志呂神社	栗田郡	常磐村	郷社	1 × 1	唐破風造	側面壁	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	—
74	立木神社	栗田郡	草津町	郷社	1 × 1	唐破風造	吹き放し (側面:腰貫)	後方柱間に扉	後方柱両脇から廻る	—
75	小槻神社	栗田郡	志津村	郷社	1 × 2	唐破風造	吹き放し (側面:腰長押)	親柱柱間に扉	親柱両脇から廻る	—
77	五百井神社	栗田郡	治田村	村社	1 × 1	唐破風造	側面壁か	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	—
80	意布岐神社	栗田郡	常磐村		1 × 1	切妻造	吹き放し	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	—
83	川枯神社	甲賀郡	油日村	郷社	1 × 2	入母屋造	側面壁か	不明	前方柱両脇から廻る	神門
86	吉御子神社	甲賀郡	石部村	村社	1 × 1	唐破風造	側面壁か	前方柱間に扉	前方柱両脇から廻る	神門
90	馬路石邊神社	野洲郡	守山村	郷社	1 × 1	唐破風造	側面壁	(玉垣)	前方柱両脇から廻る	神門

## 6. おわりに

以上、滋賀県立図書館が所蔵する『近江宝鑑』内に所収されている111葉、114社の神社の絵図を管見したところ、本書内の拝所については以下のことが指摘できる。

「拝所」の記述は2例(1.8%)と少なく、これらが示している建物は、拝所ではなく割拝殿である可能性が高い。また、絵図にみられる若狭地方や旧丹波国、旧山城国の拝所と類似する建築形式をもつ建物(拝所)の描写においても13例(11.4%)と少数で、これらのうち2例が幣殿、1例が神門と記述していることから、当地域での拝所の呼称は一般的でなく、本殿のすぐ前にたつ建物を一社殿としてみていなかった可能性が高い。

さらに、本殿の前にたつ神門の中でも妻入りのものは、規模や屋根形式、外廻に拝所と類似した建築形式がみられ、拝所との関連性が窺える。

## 謝 辞

本稿の主史料である『名蹟図誌近江宝鑑上・下巻』は、滋賀県立図書館の近江デジタル歴史街道からダウンロードさせて頂いた。ここに記して感謝申し上げる。

## 註

- (1) 多米淑人, 吉田純一: 独立型拝所の建築形式の特徴 ―若狭地方の拝所の建築的研究― その 1―, 日本建築学会計画系論文集, No.645(2009), pp.2481-2487.
- (2) 拙稿: 福井県若狭地方の神社にみられる独立型拝所の平面考察, 日本建築学会北陸支部研究報告集 第 53 号(2010), pp.503-506.
- (3) 同註 1
- (4) 拙稿: 『延喜式内並国史見在神社考証』にみる拝所, 福井工業大学研究紀要, 第 43 号 第 2 卷(2013), pp.380-386.
- (5) 渡邊市太郎: 名蹟図誌近江宝鑑上・下巻, 名古屋光彰館(1897), 滋賀県立図書館所蔵.
- (6) 本稿での『名蹟図誌近江宝鑑上・下巻』は, 滋賀県立図書館の近江デジタル歴史街道(<http://www.shiga-pref-library.jp/wo/da/search/>)からダウンロードしたデジタルデータを用いている.
- (7) 国立国会図書館サーチ(<http://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I0000000424961-00>)による検索結果に基づく.
- (8) 多米淑人, 吉田純一: 敦賀の常宮神社の拝所・中門の建築調査報告, 福井工業大学研究紀要, 第 39 号 第 2 卷(2009), pp.384-391.

(平成 26 年 3 月 31 日受理)